


おかげさまで三周年とほぼ半年 ^^

拝啓。

夏の終わりを告げるのでしょうか、これを書いている現在は台風 9 号が首都圏に接近中です。昨日 (9 月 5 日) から天候は不順で、バケツをひっくり返したような雨が降ったかと思うと、晴れ間が覗くという、いかにも台風が近づいている、そんな雰囲気です。首都圏を直撃する台風は 6 年ぶりだそうで、私も今日は早めに引き上げようと思っています。家がちょっと水がたまり易い場所なんです(T_T)。

この夏は一週間ほどお休みをいただきました。な〜んにもせず (笑)。猛暑をいいことに引きこもっておりました。そんな日々中最適だったのが甲子園の高校野球。クーラーをがんがんに効かせた部屋で一日中見ておりました。結果は佐賀北高校の優勝！しかも逆転満塁ホームラン。マンガだってこんなベタなシナリオは書かないよな、などと言いながら閉会式までしっかり見ておりました。県立の進学校の優勝は「特待生問題」などでゆれた高校野球にさわやかな風を吹き込んでくれました。がばいっ！

が、どうにもすっきりしないことがあります。これを書こうかどうかどうしようか散々迷ったのですが、御批

判を浴びるのを承知の上で書いちゃいます。お題は「誤審」。まさに奇跡の満塁ホームランが出る直前の押し出しフォアボールの場面です。まず見ていただきましょう。Ctrl キーを押しながら下記の URL をクリックしてください。別ウインドウが立ち上がります。(職場でご覧になるときは音を小さめに)。(あ、紙ベースの方は U-tube で「佐賀北 誤審」と検索してください)

<http://www.youtube.com/watch?v=Hz2XMTiMT0A&mode=related&search=>

ワンスリーからの一球。ボールの判定で押し出しとなりました。私も長らく野球をテレビで見してきましたが、あのコースをボールと言う審判は始めて見ました。高校野球では審判の判定に対して文句をつけることは許されません (実はプロ野球もそうなんですけど) (笑)。がキャッチャーは地面を叩き、ピッチャーは「おい、それはないだろう！」という顔をしています。監督も試合後のインタビューで記者団に「**あんな判定をされるとどう対処していいのかわからない。どこに投げたらストライクなんですかね。あの押し出しで野村は腕が振れず真ん中に投げるしかなかった。普段は何も言わない子供たちが『先生、たまりません』と。負けた気がしない**」などと話した、といひます。審判に対する批判を記者団にするのは異例中の異例。だからこんな言葉が出たそうです。「**言っちゃいけないことは分かっている。でも、言わないと変わらないでしょ！？。高野連は考えてほし**

い。辞めろと言われれば辞める！！」。

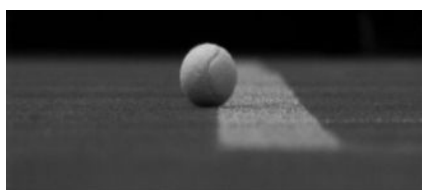


言っちゃいましたねー(笑)。結局うやむやです。

実は、あの試合でバッターボックスに立っていた佐賀北の井出選手も07年8月23日付けの「サンケイスポーツ」に、「8回の押し出しはストライクと思った」とコメントしています。どうも世紀の誤審だったようです。

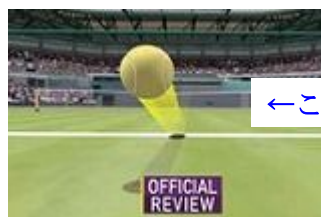
野球は審判が絶対。アウト・セーフの判定はよほどのことがない限り覆りません。増してやストライク、ボールの場合には絶対に覆りません。であるからこそ、**審判には十分な技量が求められます**。高野連は審判の選出に十分に配慮するべきでしょうね。手弁当である灼熱のグラウンドで3時間近く集中を求められる過酷な仕事です。水分補給等の熱中症対策は万全だったのでしょうか？

様々なスポーツでは今、ビデオを利用した誤審対策が進められています。先日熱戦を繰り広げたウインブルドンテニスもその一つです。テニスはボールの一部が線にほんの少しでも触っていれば「イン」になります。



←これは「イン」です（画面右から飛んできたボール）

ところがほとんどの人にはこれは「アウト」に見えてしまいます。確かに200キロ近いサーブでこれを「イン」と判定するのは至難の業です。したがってウインブルドン大会のように芝生でボールの跡が残らないコートでの判定をめぐるトラブルはあとを絶ちませんでした。ところが今回から「ホークアイ」と呼ばれる自動判定システムが導入されました。これは全部で8台のカメラを使ってボールの奇跡をCG化するというものです。選手は判定に不満があるときは1セットにつき3回だけ「チャレンジ」と呼ばれる、



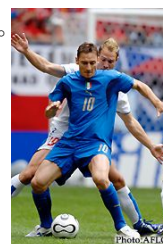
←これがその3D映像です

ビデオ判定を求めることが出来るようになったのです。実際はこのシステムはかなり有効で度々判定が覆りました。選手にはおおむね歓迎されているようです。審判にとってはいやなシステムかもしれませんが。

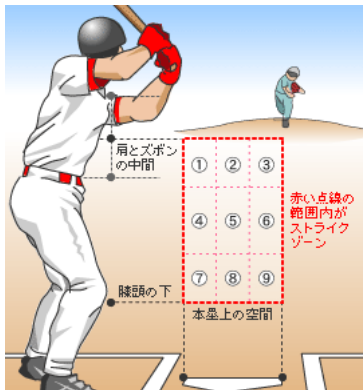
相撲でも「ものいい」がそうですね。あの旧態依然たる日本相撲協会がビデオを参考にしています（笑）。アメリカンフットボールでも「ビデオチャレンジ」は一試合につき2回まで認められています。審判も誤審はする、と言うことを前提としてのシステム導入ですね。私は大賛成です。

そう言えば2002年のワールドカップ「イタリア対韓国」戦でもありましたね。あれは試合後審判が誤審を認めました。もっともそれでイタリアが救われることはありませんでしたが。

気の毒なトッティ王子です→



これが他のスポーツでもできるのであれば、野球でも・・・、と行きたいところですが、野球では非常に難しい。ストライク・ボールの判定が選手によって違ってしまうためです。



※ ストライクゾーンとは、『本塁ベース上』で、『打者の膝頭の下を通る地面と水平の線』と『打者の肩とズボンの上端の中間部分（みぞおちぐらいになりますね）を通る地面と水平の線』で挟まれた空間となります。バッターによってストライクゾーンが違うのです。

（胴長の選手はストライクゾーンが広い！）（笑）。

恐ろしくくらいにファジーです。しかもバッターは動きます

幼稚園児を立たせたら恐らくストライクは取れないでしょう（笑）。

しかも、野球場は非常に広いためにカメラの設置が難しい。ホームベース上にカメラを設置してボールが「本塁ベース上」をよぎったかどうか、はどうにかなりそうですが、高低に関しては難しいでしょうね。やはり一番近くで見ている審判の目に頼らざるを得ないようです。今さら持ち上げるのもどうかと思いますが、野球の審判は非常に高度なレベルの、「空中での判断」を要求されているわけです。

さあ、そろそろ落ちをつけなければいけないのですが（笑）。実際のビジネスでもこうしたことはしょっちゅう起こっていると思います。こうした「誤審」に対してどのように備えれば良いのでしょうか？ 私なりの答えは「**誤審**」は必ず起きる、と覚悟しておく。あまりにも単純なもので恐縮ですが、実際には役に立ちます。正しいことと実際に起きることは違うこと、自己認識と他人の認識には絶対に差があること。むかつ！と来たときはこの言葉を思い出してください（笑）。

もう一つの答えは「**リスクヘッジ**」をしておくこと。これは最近学んだことですが、「先物市場」と言うあまりいいイメージがないかもしれませんが、リスクヘッジのためには絶対に必要な仕組みです。自分はこう思うけれども、それが間違ったときのために先に手を打っておく、これが先物の根本的な概念です。あらゆる金融機関、メーカーは為替予約を行います。原料の先物予約をします。

個人で商品先物をやることはお勧めしませんが、今のガールフレンドに振られたときのために、次をキープしておくなんて・・・私には出来ませんが（笑）。

そうは言ってもまだまだ暑い日が続くようです。お体には十分にお気をつけください。

ではでは～（＾＾）／～～

株式会社アール・リサーチ 〒271-0051 千葉県松戸市馬橋 1896-1 ヴィレッジ K・I 馬橋 3 F

Tel 047-342-3181 mobile 090-7428-8999 mail : ryubon@kkd.biglobe.ne.jp